

5. DLA <聴く> 映像 (DVD) スクリプト

1 「えんそく」

皆さん、遠足って知っていますか。(遠足の絵を見せて) 遠足ですよ。
明日、遠足に行きます。(さくら山の絵を見せて) さくら山です。みんなでさくら山に行きます。
(バスの絵を見せて) バスで行きますよ。みんなでさくら山に登りましょう。

2 「うんどうかい」

皆さん、明日は運動会です。(運動会の絵を見せて) 運動会ですよ。(徒競走・玉入れ・綱引きの絵を見せて) 走ります。80メートル。80メートル走ります。(体育の服装の絵を見せて) 体育の服で来てください。いい?(給食の絵を見せて) 明日は土曜日ですが、給食があります。(片手を勢いよく高く上げて) さあ、みんな、頑張りましょう。

3 「こうじょうけんがく工場見学」

皆さん、これを見てください。(自動車工場の絵を見せて) ここは、どこですか。うん、そうですね。自動車を作るところ。自動車工場って言います。(工場見学の絵を見せて) 来週、みんなで自動車工場に見学に行きます。自動車ってどうやって作るのか工場の話をよく聞いてください。(持ち物の絵を見せて) 持ち物は、お弁当と水筒、それから、ノートと鉛筆も持ってきてください。

4 「えんそくのおしらせ」

はい。では、うしろまでお知らせの紙いきましたか。はい。では、説明をします。えー、このお知らせは遠足のしおりです。よく見てください。では、ちょっとみんなに質問してみようかな。遠足に行くのはいつですか。おー、あたりー。5月10日、木曜日です。5月10日の木曜日に遠足に行きます。今日は5月7日、月曜日なので、んー、もうすぐですね。では、次の質問。場所はどこですか。おー、正解。大山公園に行きます。大山公園には、大山がありますよね。そう、大山に登りますよ。みんなで登ります。えー、大山、高さどれくらいか知っていますか。ううん、もっとも。あー、600メートル。そう、大山はだいたい600メートルくらいあります。あそこの頂上からは、晴れていれば海が見えます。先生もあそこで海見るのとっても楽しみにしているので、晴れたらいいなって思ってます。皆さんも楽しみにしてください。

はい。えー、続いて、出発は9時。みんなはいつも通り学校に登校します。ただし、ランドセルじゃありませんよ。リュックで来てください。はい。持ち物は、お弁当、水筒、それから、あそこの頂上でお弁当を食べるので、下に敷くレジャーシートがあるといいと思いますね。お弁当、水筒、レジャーシート、わかりましたか。えー、それから帰りは、だいたい3時頃になります。3時頃に帰ってきますので、このお知らせと一緒にうちの人に伝えておいてください。それでは、遠足のお話はこれでおしまいにします。

5 「トマトのさいばい」

はい、みなさん。この写真を見てください。そう、トマト。真っ赤ですね。トマト好きな人?お

一、いっぱいいる。じゃあ、苦手な人？これも結構いますね。先生もね、小学生の時はトマト苦手でした。でもね、すぐに好きになりました。みずみずしくて夏はおいしいなーって思って食べてました。

はい。それでは今日これからやることを説明します。これから外に行って、トマトの苗を植えます。そう、一人ひとつずつ。自分のトマトを育てましょう。

うん、楽しみです。あ、そう。大きく育てて実がなったら、収穫してみんなで食べることもできますよ。はい。まず、外に出たら、先生が一人一人に植木鉢、植木鉢を渡します。そしたら、スコップで土を半分まで入れてください。

多すぎても少なすぎてもいけませんよ。半分まで土を入れてください。

そしたらそのあとで、トマトの苗をここに入れます。トマトの苗を真ん中に置いたら、またスコップで土を入れていきます。それでここまで、トマトの苗が隠れるここまで土を入れます。今日やることはここまでです。

でも、この先のことをちょっと説明します。花、そうトマトの花。ねえ、こんな色なんです。黄色。きれいですね。ここに実がなっていますね。トマトの花です。

それからトマトが育ってきたら、棒を立てます。ね、棒。何のために棒を立てるんでしょう。あ、そう、あたり。よく分かりましたね。そう。トマトは芽がこうどんどん伸びていくので、こう横にね曲がって行っちゃうんですね。で、倒れちゃう。それを、倒れないで、まっすぐ伸びていってくださーいのために、棒を縦に立てます。ひもで棒にこう結ぶんですね。そうすると、まっすぐ育っていきます。それから大事なこと。水やりですね。自分のトマトなので、自分でしっかり水やりできるといいですね。

さあ、それではみんなで外に出て、実際にトマトの苗を植えてみましょう。

6 「ごみの ゆくえ」

今日からごみについて勉強します。ごみにはどんな種類があつて、集められたごみはどうなるのか、ごみの行方について勉強します。はい、ではまず、この写真を見てください。何の写真ですかね？ おー、そうですね。ごみ収集車がごみを集めているところですね。はい。では、この写真を見て何か気づいたことありますか。あー、あ、ヘルメットね。あー、作業の人がヘルメットをかぶっていますね。うん、それから？ ああ、長袖、長ズボン。あー、ね、何でヘルメットかぶって、長袖、長ズボンなんだろうね。ああ、危険なんだ。あ、危険な仕事。うーん、なるほどね。どんなふうに危険なんだろうね。ああ、え、何、ビンが割れたりするの？ ああ、危ないんだ。ははあ。じゃ、ビンがこん中に入ってるの？ えっ、入ってない？ ふうん。じゃ、このごみは... 紙屑。ああ、じゃ危なくないじゃん。あ、でも危ないんだ。はー。さあ、実際 どうなんだろう。

みんなのおうちでは、どんなごみが出るか、1週間ごみ調べをしてもらいましたね。どんなごみが出るかな。みんなのおうちではどんなごみが出ましたか。はい。紙屑。あー、紙屑。紙屑。紙屑出ますね。他には？あ、紙屑。ね、今出ましたね、紙屑。他には？ はい。生ごみ。これも出ますね。生ごみ、これも出ます。他には？ 新聞、これもたくさん出ますね。新聞、ちらしね。読み終わった新聞を古新聞といいます。古新聞と書いておきますね。はい、他には？ ペットボトル、これも出ますね。先生の家もね、ペットボトルたくさん出ますよ。はい。ね、おうちではいろいろなごみが出

ますよね。

じゃあね、このごみ、どうするのかな？うん、ごみ収集車に積んで...え、これ海に捨てに持って行くの？あー、あっ、燃やす。あー、燃やすのね。全部燃やすんだ、これ、ね。全部、バアーっと。全部これどっか持って行ってバアーっと燃やすんだ。えっ、ペットボトルは燃やさない。あー。じゃあ、この上の3つは燃やすの（紙くず・生ごみ・古新聞・ちらしを指して）。え、古新聞、ちらしは燃やさない。じゃあこの紙屑、生ごみを燃やすの。うん。じゃあ、この古新聞、ちらしとペットボトル、これどうするの。リサイクル。あー、なるほどね。実際どうなんでしょうね。

じゃあね、これ次の質問。これ、ごみ、このごみどこに持っていくんでしょう。うん、どこ？あー、うん。大体当たり。うん。こう言います。ごみ処理センター。ね。えー、これらのごみは、ごみ処理センターに持って行きます。では、このごみは、ごみ処理センターに運ばれて、それでどうなるんでしょう。じゃあね、今話したごみのことについて、実際にどうなのか、次に教科書見てみましょう。

7 「エネルギー」

はい、それでは、このグラフを見てください。これは、今から40年以上前。先生がまだ小さい時ですね。1975年の日本の電力を作る時のエネルギー源の割合のグラフです。さあ、何か気付いたことありますか。うん。はい。石油、62.1%。ね。石油を使って電気をほとんど作っていたんですね。それから、水力、原子力、天然ガス、石炭と、えー、いうふうには続いていました。はい。ところが、こんなに石油に頼っていていいのかなあ、っていうことになりました。なぜなら、1970年代にオイルショックというのが起こりました。それで、この62.1%を占めている石油がもし日本に入ってきてなくなってしまうたら、どうしようということになりまして、えー、この後、日本はこの割合を変化させていきます。どのようになったか。

このグラフを見てください。はい。これは2006年、今から10年ぐらい前ですね。日本の電力を作る時のエネルギー源の割合。2006年はこのようになりました。はい。さあ、何か気付いたことある人？うん、そうだね。石油、7.8%。減りましたね。それから水力、石炭、天然ガスを使って、一番多いのは？そう原子力です。30.5%。ただし、ね、みなさんもご存知のように、2011年に起きたあの東日本大震災で、原子力発電所が事故に遭ってしまいました。もう原子力は使えないかもしれない。そうなったら、この30.5%はどうなっちゃうんでしょう。

さあ、今後日本は原子力を使えない、原子力で電気を起こせないとしたら、どうしたらいいんでしょうか。それを考えていくのが、このエネルギーの勉強です。んー、どうしよう、ね。じゃあ、ちょっとヒントをあげます。これ見てください。

これは、日本と同じ島国。ね、アイスランドのエネルギー源の割合です。同じく2006年。はい、気付いたこと。うん、そうだね。地熱・太陽・風力、60.7%。かなりを占めています。それから。石油、水力、石炭など、これも使って電気を作っているということですね。

さあ、今後日本のエネルギーどうなるのでしょうか。それをこれから勉強していきたいと思えます。

8 「^{じしん}地震」

皆さん、ええ、今日から新しい勉強が始まります。地震についてです。

日本は地震が多い国で、昔から、あちこちで大きな地震が起こってきたんですね。あ、そうそう、昨日の夜も強い地震がありましたよね。先生の家では、棚の上にあったものが落ちてきそうになりました。皆さんの家ではどうでしたか。あ、このなかでだれか夕べの地震がどのくらいだったか、ニュースで聞いた人、いますか。そう、そうですね、この辺りは震度 4、震度 4 って言っていましたね。

ところで、地震のニュースでよく震度とか、マグニチュードという言葉を使いますよね。これどういう意味だかわかる人いますか。うん、どうぞ。うん、震度は、どれくらい揺れたか。地震大きさ...その通り。そうなんです、その通りなんです。えー、震度は、地震の揺れの大きさ、地震の揺れの大きさを表しているんですね。じゃあ、マグニチュードは？あ、これはちょっと難しかったかな。じゃあね、これは先生が言います。マグニチュードというのは、地震のエネルギーの大きさ。地震のエネルギーの大きさを表しているんです。

はい。えー、地震の強さを表すのに、えー、震度とマグニチュードという二つの言葉が使われているんですね。はい、今日はこのうちの震度、震度について勉強します。マグニチュードについては、この次にします。はい。さあ、震度、震度は今言ったように、地震の揺れの大きさを表しているんですね。震度は、震度計という機械で測ります。えー、夕べの震度は 4 でした。この震度、この震度はいったいいくつに分かれているか、知っている人いますか。はい、どうぞ。えっ、20？いや、そんなに多くないな。います？え、じゃあ、教科書の 32 ページを開いてください。そこにある震度表を見てください。(震度表) 震度 0 から始まって、震度 1、2、3、4 とだんだん強くなっていきます。震度 5 と震度 6 のところを見てください。震度 5 と震度 6 はそれぞれ弱い、強い二つあります。震度 5 の弱い地震、震度 5 の強い地震っていうように。そして、最後は震度 7。全部で、そう、10 に分かれていますね。ええと、例えばですね、震度 1 は、どれくらいの揺れと書いてある？うん。「建物の中にいる人の一部が、揺れを感じる。」って書いてありますね。夕べの地震は震度 4 でしたね。震度 4 は、「眠っている人のほとんどが目を覚ますような地震。」って書いてあります。ねー。結構強い地震だったことがわかりますよね。

さあ、その次に進みます。地震は地球の内部で起こります。えー、地震が起こると、揺れが地面の中を伝わっていきます。次に、それがどう伝わっていくのか、地震の揺れの伝わり方を見ていきましょう。ええ、これは地震計といいます。地震の揺れを記録する装置です(地震計の写真)。この地震計の記録を見てください(地震計の記録を指して)。これを見て、何か気がついたことはありませんか。うん、どうですか。そうですね、ほら、最初は揺れが弱いんですね。でも、後から大きな揺れがやって来ていますね。そうなんです。地震は、最初に弱い揺れがやって来て、その後に強い、大きな揺れがやって来る。これが地震の揺れの特徴なんです。

さあ、では次にそれが書いてある、えー、部分を読んでみましょう。えー、教科書 34 ページを開いてください。